

日本語学習者に対する漢字字形の選好調査 — 台湾の学習者の場合 —

高田 智和
国立国語研究所

要旨

台湾の日本語学習者に対して、字体差やデザイン差のある漢字字形の選好調査を行った。調査結果から、(1) 字体レベルの形の違いでは、相手の日本人がふだん使っている漢字字体の推測・類推が選択結果に影響を与え、(2) 字形レベルの形の違いでは、初等教育以来接してきた字形が選択結果に影響を与えることがわかった。

キーワード(11pt MSゴシック)

異体字・デザイン差・字形選好

1. はじめに

いわゆる異体字(「亜一亜」など)やデザイン差字形(「食—食」など)など、漢字の豊富なバリエーションが、日常の文字生活や漢字学習にどのような影響を与えているのか、その実態や原理の全貌は未だ明らかになっていない。これを解明するため、漢字の異体字のパターンを刺激反応実験に用い、人間の文字の認知のメカニズムを探ろうとする一連の研究(笹原宏之・横山詔一・エリク=ロング(2003)、横山詔一・笹原宏之・當山日出夫(2006))は、横山詔一氏によって、人間の心内辞書(記憶痕跡、なじみ、好み)と現実社会の文字使用頻度が相互循環の関係にあるとする「文字生活のサイクルモデル」が提示され(図1)、漢字使用頻度から異体字選好を数理的に予測する段階にまで達している(横山詔一(2006・2012)など)。

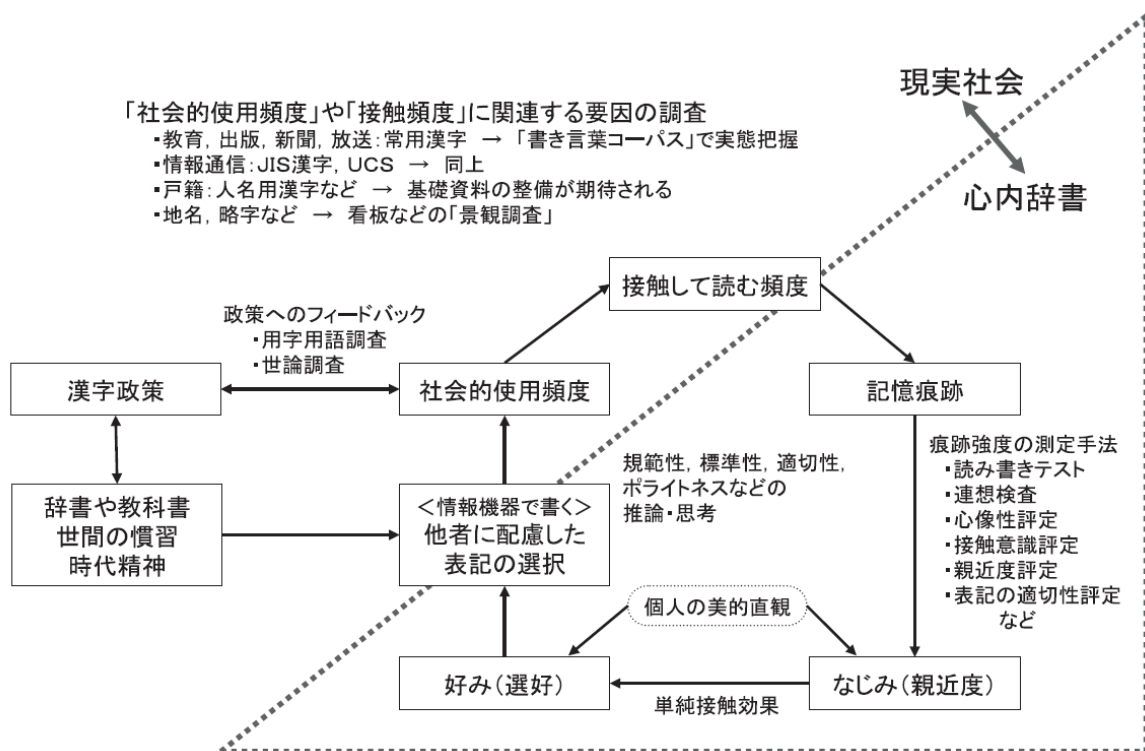


図1: 横山詔一(2012)による文字生活のサイクルモデル

本稿は、上記の一連の研究のなかで行われた、台湾の日本語学習者を対象とした異体字・デザイン差字形の選好調査を取り上げ、調査結果の全データを示すとともに、若干の考察を加えるものである。

2. 調査データ

台湾の日本語学習者のデータは、異体字・デザイン差字形 120 ペアについて、2007 年 5 月に東呉大学の日本語学習者（大学生・大学院生）78 名から収集したものをを用いる。

台湾と日本とでは、標準・通用の漢字字体が異なる。表 1 に示すように、台湾では日本の旧字体に相当する繁体字が通用の漢字字体となる。

表 1: 台湾・日本の字体規範の違い

字体	台湾	日本
亞	繁体字（標準字体）	旧字体（康熙字典体）
亜	使わない	新字体（通用字体）

そこで、実際の調査では、「もし、あなたがパソコンで日本語の文章を書いて日本人に送るとしたら、どちらの字を使いたいのか、教えてください」と教示し、台湾のいわゆる繁体字とは異なる、日本の通用字体（常用漢字字種ならば新字体）を選択するかどうかを調べた（調査票を末尾に示す）。日本人が相手ならば、他者に配慮した表記の工夫がなされ、日本の通用字体を選択する割合が多くなると予想される。

3. 字種・字体・字形

図 2 に示すように、常用漢字表では明朝体活字の一種を用いて現代通用の字体（新字体）を例示するとともに、かつての通用字体である旧字体（康熙字典体）を括弧書きで添えている。字体は「文字の骨組み」とであるとされる。

漢 字	音 訓	例
亜 (亞)	ア	亜流, 亜麻, 亜熱帯
哀	アイ	哀愁, 哀願, 悲哀
	あわれ	哀れ, 哀れな話, 哀れがる
	あわれむ	哀れむ, 哀れみ

図 2：常用漢字表（本表の冒頭部分）

新字体「亜」と旧字体「亞」は、漢字の形音義のうち、音と義を共有し、形（字体）だけが異なる。このような場合、字体「亜」と字体「亞」は異体字の関係にあると言う。現代の日本では、字体「亜」は新字体、字体「亞」は旧字体と、いわば字体価値のラベルが貼られている。字体価値のラベルは時代と地域によって変わるものであり、現代の台湾では、字体「亞」は標準字体、字体「亜」は強いて言えば日本通用字体となろう。

異体字の関係にある複数の字体をまとめた概念として、字種を設定すると（高田智和（2009b・2013））、字種と字体の関係は図 3 のようになる。ここでは便宜的に「亜」を代表させ、《 》をつけて字種を表わし、〔 〕をつけて字体を表わしている。字種《亜》には 2 種類の字体〔亜〕〔亞〕があるという階層関係で表現できる。

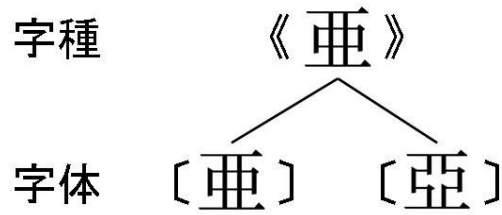


図3：字種と字体の関係

また，常用漢字表の「(付) 字体についての解説」では，骨組みである字体が活字や肉筆で実現されたときに，さまざまな形になることを述べている。図4は明朝体活字のいわゆるデザイン差の例，図5は筆写の楷書と明朝体活字との差の例である。

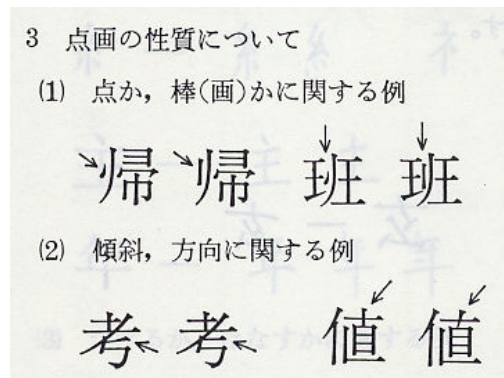


図4：(付) 字体についての解説 第1 明朝体活字のデザインについて（一部）

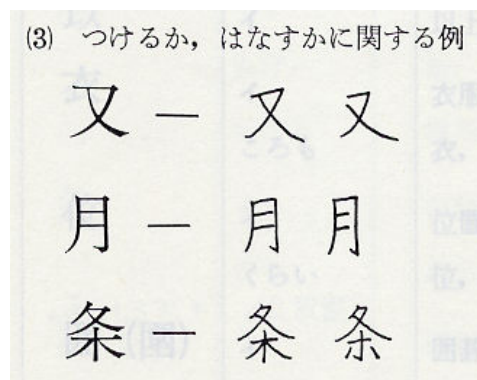


図5：(付) 字体についての解説 第2 明朝体活字と筆者の楷書との関係について（一部）

明朝体でデザインされた活字や，筆写の楷書などによって，具体的に実現された文字の形を字形と呼ぶと，字形は，同一字体内における文字の形の変異のように解釈できる（図6）

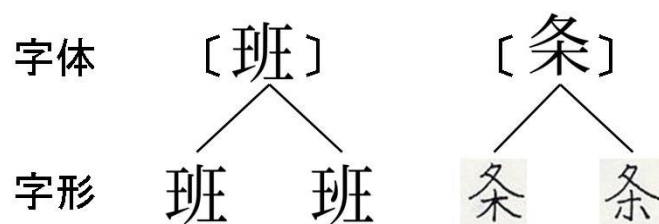


図6：字体と字形の関係

字体と字形の関係は，音韻論・音声学における音韻と音声の関係になぞらえて説明されることが多い。字体そのものの概念についても，常用漢字表が採用する骨組み説のほかに，抽

象字形説，代表字形説，社会共通の標準説など，研究者によって分かれるところであるが，漢字の形を考えると，字体を設定することは概ね共通している。

字種と字体の関係，字体と字形の関係は，さらに字種・字体・字形の階層関係にまとめることができる（図7）。常用漢字表では，字種《条》に属する字体として，〔条〕と〔條〕の2種類を記述し，字体〔条〕の字形として筆写例を二つ挙げているが，字種《条》の字体や字形がこのほかにも存在するであろうことは容易に推測可能である。したがって，常用漢字表は，字種《条》の形の世界のごく一部分（図7で枠をつけた部分）を切り取って示していると言えよう。

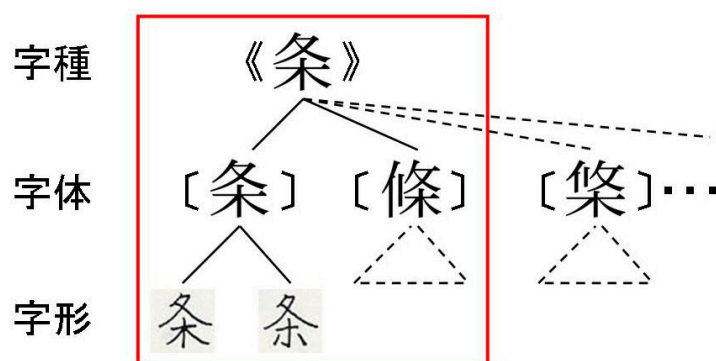


図7：字種・字体・字形の階層関係

字種・字体・字形の階層関係したがうと，異体字ペアは字体レベルでの形の違い，デザイン差字形ペアは字形レベルでの形の違いにそれぞれ相当する。

4. 調査結果

以下に，調査結果を4.1. 常用漢字字種の異体字ペア，4.2. 表外漢字字種の異体字ペア，4.3. デザイン差字形のペアの3種に分けて示す。なお，ここで言う「常用漢字」は昭和56年内閣告示の旧常用漢字である。

4.1. 常用漢字字種の異体字ペア

常用漢字字種の異体字ペアは33ペアである。33ペアすべてにおいて，日本語学習者の選好は旧字体よりも新字体の方が優勢である（表2，新字体の好みの%順に配列，台湾標準字体のうち〔乙表〕を添えたものは「次常用國字標準字體表」の乙表に示されたもの）。新字体選好率の平均は88.9%である。他者に配慮した表記の工夫がなされた結果であると考えられる。

ID101《慎》，ID179《獵》，ID22《喝》，ID100《真》，ID96《飲》は，旧字体選好率が30%をこえている。ID101《慎》，ID100《真》，ID96《飲》は，新字体と台湾の標準字体とが類似しているため，日本の通用字体は台湾のものとは異なるという知識によって，旧字体を選択した可能性もあるだろう。

表2：常用漢字字種の異体字ペア

ID	新字体	新字体 好み(%)	旧字体	旧字体 好み(%)	総画 数差	台湾標準字体
17	會	98.7	會	1.3	7	會
23	觀	98.7	觀	1.3	6	觀
38	經	98.7	經	1.3	2	經
164	万	98.7	萬	1.3	9	万〔乙表〕 萬
29	狹	94.9	狹	5.1	1	狹

34	区	94.9	區	5.1	7	區
35	欧	94.9	歐	5.1	7	歐
44	儉	94.9	儉	5.1	5	儉
54	国	97.4	國	2.6	3	國
150	讀	97.4	讀	2.6	8	讀
155	発	97.4	發	2.6	3	發
175	滝	97.4	瀧	2.6	6	瀧 ^[乙表]
110	数	96.2	數	3.8	2	數
139	単	96.1	單	3.9	3	單
108	尽	94.9	盡	5.1	8	盡
136	駅	94.9	驛	5.1	9	驛
137	訳	94.9	譯	5.1	9	譯
121	銭	93.6	錢	6.4	2	錢
148	売	93.6	賣	6.4	8	賣
74	寿	92.3	壽	7.7	7	壽
140	戦	92.3	戰	7.7	3	戰
174	竜	92.3	龍	7.7	6	龍
11	蛍	91.0	螢	9.0	5	螢
135	沢	91.0	澤	9.0	9	澤
95	嬢	89.7	嬢	10.3	4	嬢 ^[乙表]
170	謡	84.6	謠	15.4	1	謠
45	顔	79.5	顏	20.5	0	顏
134	塚	70.5	塚	29.5	1	塚
101	慎	66.7	慎	33.3	0	慎
179	猟	66.7	獵	33.3	7	獵
22	喝	65.4	喝	34.6	1	喝
100	真	65.4	眞	34.6	0	眞
96	飲	55.1	飲	44.9	1	飲

4.2. 表外漢字字種の異体字ペア

表外漢字字種の異体字ペアは 75 ペアである。このうち、常用漢字新字体に準じて字体を簡略化させた拡張新字体の選好率が優勢なものは 60 ペアである（表 3、拡張新字体の好みの%順に配列）。また、康熙字典体の選好率が優勢なものは 15 ペアである（表 4、康熙字典体の好みの%順に配列）。拡張新字体の選好率が優勢な字種の方が多く、拡張新字体選好率の平均は 70.2%である。

現代の日本において、常用漢字字種以外の表外漢字字種の字体使用は、常用漢字新字体のような簡略字体ではなく、康熙字典体を使うことが書籍や新聞などの印刷物では一般的である。しかし、多くの日本語学習者が拡張新字体を選択したのは、日本では簡略字体を用いるという知識をはたらかせて、表外漢字字種にも類推を行ったものと見られる。これも他者に

配慮した表記の工夫ということができるだろう。

表 3：拡張新字体選好率が優勢な表外漢字字種の異体字ペア

ID	拡張新 字体	拡張新字体 好み(%)	康熙 字典 体	康熙字典 体好み (%)	総画 数差	台湾標準字体
43	𩇛	94.9	𩇛	5.1	5	𩇛
30	𩇛	92.3	𩇛	7.7	1	𩇛
141	𩇛	92.3	𩇛	7.7	3	𩇛
142	𩇛	92.3	𩇛	7.7	3	𩇛 _[乙表]
166	𩇛	91.0	𩇛	9.0	9	𩇛
157	𩇛	90.9	𩇛	9.1	3	𩇛 _[乙表]
14	𩇛	89.7	𩇛	10.3	5	𩇛
28	𩇛	89.7	𩇛	10.3	1	𩇛
77	𩇛	89.7	𩇛	10.3	7	𩇛 _[乙表]
165	𩇛	89.7	𩇛	10.3	9	𩇛
109	𩇛	88.5	𩇛	11.5	8	𩇛
143	𩇛	88.5	𩇛	11.5	3	𩇛
228	𩇛	88.5	𩇛	11.5	4	𩇛
31	𩇛	87.2	𩇛	12.8	4	𩇛
36	𩇛	87.2	𩇛	12.8	7	𩇛
37	𩇛	87.2	𩇛	12.8	7	𩇛
57	𩇛	87.2	𩇛	12.8	0	𩇛
75	𩇛	87.2	𩇛	12.8	8	𩇛
246	𩇛	87.0	𩇛	13.0	3	𩇛
156	𩇛	85.9	𩇛	14.1	3	𩇛
176	𩇛	85.9	𩇛	14.1	6	𩇛
55	𩇛	84.6	𩇛	15.4	3	𩇛
169	𩇛	84.6	𩇛	15.4	2	𩇛
171	𩇛	84.6	𩇛	15.4	1	𩇛
76	𩇛	83.3	𩇛	16.7	7	𩇛
111	𩇛	83.3	𩇛	16.7	2	𩇛
120	𩇛	83.3	𩇛	16.7	0	𩇛
181	𩇛	83.3	𩇛	16.7	0	𩇛
222	𩇛	83.3	𩇛	16.7	7	
46	𩇛	82.1	𩇛	17.9	0	𩇛
122	𩇛	82.1	𩇛	17.9	2	𩇛
138	𩇛	82.1	𩇛	17.9	9	𩇛
180	𩇛	82.1	𩇛	17.9	1	𩇛
24	𩇛	80.8	𩇛	19.2	7	𩇛

94	囊	79.5	囊	20.5	3	囊
119	巽	79.5	巽	20.5	0	巽
125	曾	79.5	曾	20.5	1	曾
149	瀆	79.5	瀆	20.5	8	瀆
3	壺	78.2	壺	21.8	1	壺
126	噌	78.2	噌	21.8	1	噌 _[乙表]
21	葛	75.6	葛	24.4	1	葛
42	捲	73.1	捲	26.9	1	捲
102	填	71.8	填	28.2	0	填
41	倦	70.5	倦	29.5	1	倦
103	顛	70.5	顛	29.5	0	顛
104	楨	70.5	楨	29.5	0	
69	邇	67.9	邇	32.1	9	邇
242	琢	67.9	琢	32.1	1	琢
257	喻	66.7	喻	33.3	0	
133	啄	65.4	啄	34.6	1	啄
115	漭	64.1	漭	35.9	2	
18	檜	61.5	檜	38.5	7	檜
118	卿	61.5	卿	38.5	2	卿
178	蠟	60.9	蠟	39.1	7	蠟
123	煎	59.7	煎	40.3	0	煎
39	頸	52.6	頸	47.4	2	頸
68	爾	52.6	爾	47.4	9	爾
99	蝕	52.6	蝕	47.4	1	蝕
98	餅	51.3	餅	48.7	1	餅
97	飴	50.0	飴	50.0	1	飴

表 4：康熙字典体選好率が優勢な表外漢字字種の異体字ペア

ID	拡張新 字体	拡張新字体 好み (%)	康熙 字典 体	康熙字典 体好み (%)	総画 数差	台湾標準字体
220	蔑	25.6	蔑	74.4	0	蔑
63	祇	29.5	祇	70.5	1	祇
73	鰯	33.3	鰯	66.7	0	
177	鼠	33.3	鼠	66.7	5	鼠
6	秤	34.6	秤	65.4	0	秤
72	溺	35.9	溺	64.1	0	溺
114	鏞	37.2	鏞	62.8	0	鏞 _[乙表]
158	稗	38.5	稗	61.5	1	稗
233	蜻	41.0	蜻	59.0	0	蜻

64	桺	41.0	桺	59.0	1	
88	哨	43.6	哨	56.4	0	哨
113	鯖	43.6	鯖	56.4	0	鯖 [乙表]
132	樽	43.6	樽	56.4	0	樽
89	屑	44.9	屑	55.1	0	屑
159	瀕	48.7	瀕	51.3	1	瀕

康熙字典体の選好率が優勢な字種は、結果として、現代日本の印刷字体として一般的なものを選択したことになる。しかし、台湾標準字体と見比べてみると、ID63《祇》、ID6《稗》、ID72《溺》、ID114《鯖》、ID233《蜻》、ID88《哨》、ID113《鯖》、ID132《樽》、ID89《屑》の9字種は、拡張新字体が台湾標準字体と一致するか、近似しているため、やはり、日本の通用字体は台湾のものとは異なるという知識が働き、字体の選択につながったものと考えられる。

ID73《鰯》、ID64《桺》は、台湾の「常用國字標準字體表」「次常用國字標準字體表」にない字種であるが、部分字体の「弱」「示」に着目して、台湾標準字体とは違うものを選択したと考えられる。

ID220《蔑》、ID158《稗》、ID159《瀕》は、拡張新字体と康熙字典体とで、運筆上の総画数の差が0画または1画と小さく、字体が近似しているため、違いがどこにあるのか把握しにくいということがあったかもしれない。

残るID177《鼠》は、総画数差が5画と字体の違いが大きい。部分字体を共有する常用漢字字種のID179《獵》、表外漢字字種のID178《蠟》では、新字体の〔獵〕、拡張新字体の〔蠟〕の選好率が高く、康熙字典体選考率が優勢なID177《鼠》とは違う傾向である。調査票では、ID177《鼠》、ID178《蠟》、ID179《獵》と連続しているものの、類推が働きにくかったようである。

4.3. デザイン差字形のペア

デザイン差字形のペアは12ペアである。ここでは、文化庁文化部国語課(2002)によって、明治以降の活字字形デザインとして優勢なものを字形A、そうではないものを字形Bとしている。

また、ここでは日本語母語話者のデータも参考として示す。日本語母語話者のデータには、2006年1月に立命館大学の学生150名から収集したものをを用いる。刺激に用いた異体字・デザイン差字形のペアは、台湾調査のものと全く同じである。

日本語母語話者の選好は、ID306《北》を除いて、字形Bの方が優勢である。字形Bは、どの字種でも、日本の学年別配当漢字の教科書体字形に近い形状である(ID317《杖》、ID318《斧》は学年別配当漢字ではないが、教科書体字形は筆押さえのないデザインである)。

教科書体は楷書体を意識して作られており、漢字教育の初期段階で使用する教科書や教材で使われている。初等教育において、なぞって文字を覚える際の手本としても、教科書体字形が使用されている。初等教育での経験と記憶が、教科書体字形に似せてつくられた明朝体デザイン字形を選択する要因であると考えられる。

同様のことが、台湾の日本語学習者についても言えそうである。ID301《八》、ID314《班》、ID315《食》を除いて、教育部標準書体の字形により近い方の字形が、選好率において優勢である。初等教育で目にした教育部標準書体の字形が、デザイン差字形の選択に影響を及ぼしていると推測される。

表 5：デザイン差字形のペア

ID	字形 A			字形 B			台湾 標準字体	日本 教育漢字
		東呉大 好み%	立命館 好み%		東呉大 好み%	立命館 好み%		
301	八	32.1	35.5	八	67.9	64.7	八	八
302	家	19.2	28.7	家	80.8	71.3	家	家
303	像	34.6	19.3	像	65.4	80.7	像	像
304	外	12.8	9.3	外	87.2	90.7	外	外
305	非	40.3	12.7	非	59.7	87.3	非	非
306	北	46.2	58.1	北	53.8	41.3	北	北
307	均	69.2	4.0	均	30.8	96.0	均	均
314	班	34.6	21.3	班	65.4	78.7	班	班
315	食	43.6	2.7	食	56.4	97.3	食	食
316	音	46.2	0.7	音	53.8	99.3	音	音
317	杖	19.2	18.7	杖	80.8	81.3	杖	
318	斧	26.9	19.3	斧	73.1	80.7	斧	

5. おわりに

以上のことから、台湾の日本語学習者の漢字字形選好においては、次の2点が指摘できる。

- (1) 字体レベルの形の違いでは、相手の日本人がふだん使っている漢字字体の推測・類推が選択結果に影響を与える。
- (2) 字形レベルの形の違いでは、初等教育以来接してきた字形が選択結果に影響を与える。

今回の調査では、学習者の段階は考慮していない。今後の課題は、学習者の段階を考慮した調査を設計することと、台湾以外の学習者を対象とした調査をすることである。

参考文献

- 1) 笹原宏之・横山詔一・エリク=ロング (2003) 『現代日本の異体字—漢字環境学序説—』, 三省堂
- 2) 高田智和 (2009a) 「平成明朝体グリフの字形変異について」『東洋学へのコンピュータ利用第20回セミナー』, 京都大学人文科学研究所附属漢字情報センター
- 3) 高田智和 (2009b) 「行政用文字の調査研究における文字同定—辞書同定と辞書非掲載字に対する文献資料・非文献資料による同定—」『日本語科学』25
- 4) 高田智和 (2013) 「字形・字体・字種と異体字」『日本語学』32-5
- 5) 文化庁文化部国語課 (2002) 『明朝体活字字形一覧—1820年～1946年—』大蔵省印刷局
- 6) 横山詔一 (2006) 「異体字選好は新聞漢字頻度から予測可能か」『計量国語学』25-4

- 7) 横山詔一 (2012) 「字体選好の地域差に関する計量的研究」『言語・情報・テキスト』19
- 8) 横山詔一・笹原宏之・當山日出夫 (2006) 「文字コミュニケーションにおける異体字の選好と親近度」『社会言語科学』9
- 9) 横山詔一・當山日出夫・高田智和・米田純子 (2008) 「台湾日本語学習者は日本人の字体選好をいかに推論するのか」『情報処理学会研究報告』2008-CH-77
- 10) 横山詔一・高田智和・當山日出夫・米田純子 (2009) 「平成明朝体のデザイン変異に関する共時的認知分析」『情報処理学会研究報告』2009-CH-81

(たかだ ともかず) (ttakada@ninjal.ac.jp)